

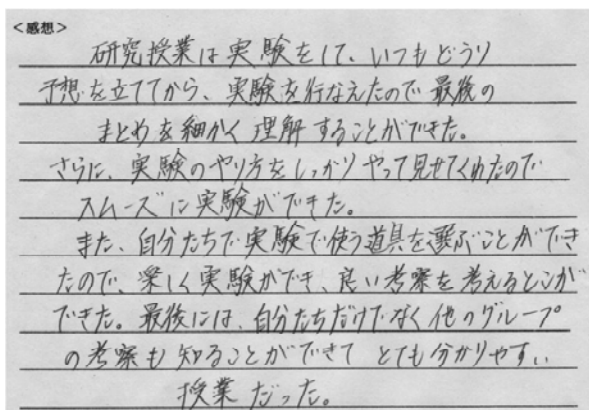


図 15 言語活動の充実が図られた感想

4 その他の実践における言語活動充実の取組

(1) 理科レポート発表

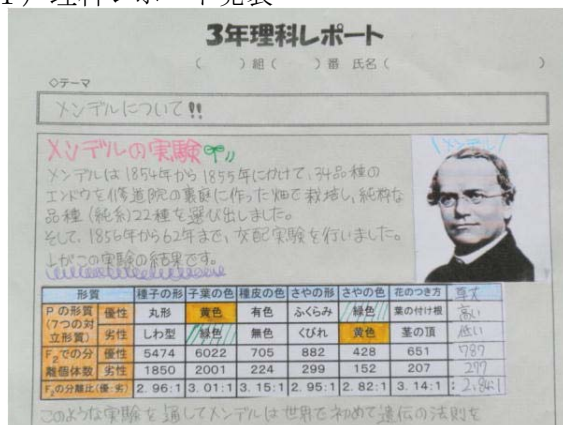


図 16 理科レポート

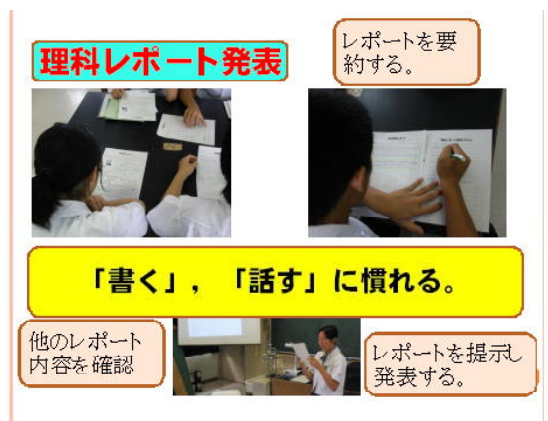


図 17 理科レポート発表

大単元終了後、理科に関する興味・関心を高めるためと表現力向上のために、理科レポート(図 16)を提出させた。生徒は書物やインターネット等を利用し、A4用紙1枚に単元に関することをまとめた。各自がまとめた後は、まず、自分のレポートを要約プリントに簡単にまとめた後、各グループごとに他の生徒のレポートを読んだ。その後、各グループ1人ずつ代表の生徒が全体の前で発表した(図 17)。発表の際の代表者は、各グループごとに一番内容が優れ、表現方法が素晴らしいのは誰かという視点で生徒同士で選んだ。発表する際は、レポート用紙をスクリーンに提示し、大きな声で発表を行った。聞く生徒は、どれがより分かりやすく、よい表現かを評価しながら聞いていた。

(2) 理科訂正ノート(図 18)

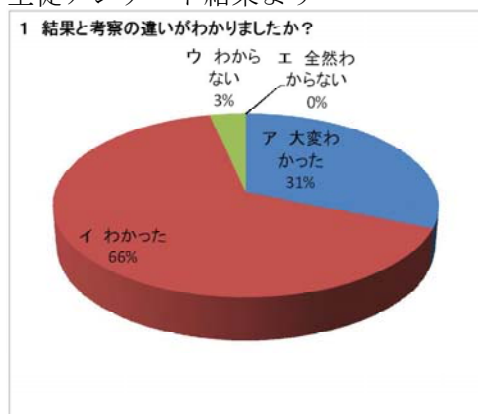
単元プリントや定期・実力テスト終了後には、間違えた問題を再度やり直した訂正ノートを提出させた。訂正ノートのやり方については、年度当初に共通理解を行い、解き方(計算過程)や重要ポイントを中心にまとめるよう指導した。このことを繰り返し行うことが基礎・基本の定着となり、これこそが、思考力・判断力・表現力の土台となると思われる。



図 18 理科訂正ノート

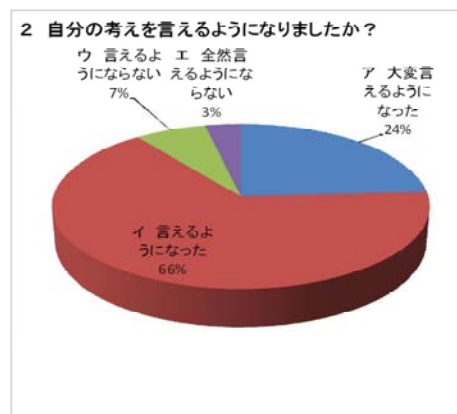
5 成果と課題

(1) 生徒アンケート結果より



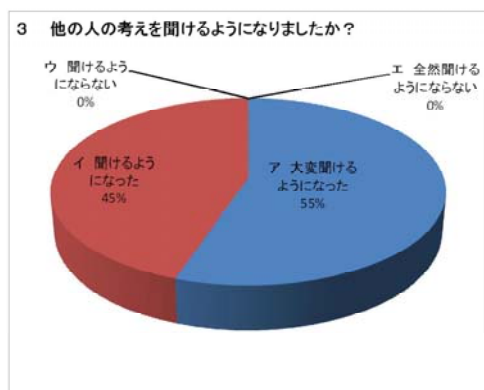
グラフ1 結果と考察の違い

ほとんどの生徒が、約7か月間の学習を通して、結果と考察の違いを理解できた。



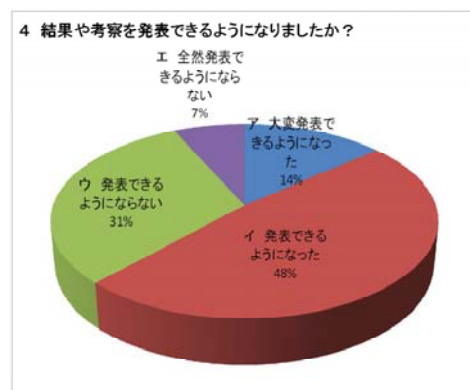
グラフ2 自分の考えを言えるか？

約9割の生徒が、自分の考えを言えるようになった。これは、グループ内で補助プリントへ記入した後での意見の発表だと思われる、すぐに意見を言えるかはまだ多くの学習を必要とする。



グラフ3 他の人の考えを聞けるか？

全部の生徒が、他の人の考えを聞けるようになった。グループ内や全体での発表時など「聞く」態度が大きく向上した。



グラフ4 結果や考察を発表できるか？

人前で発表できるようになったのは、約6割で、まだ、人前での発表に苦手意識があるようである。表現することのよさや楽しさを経験させる必要がある。

(2) 成果

- ア 「話す」、「書く」、「読む」活動に以前より積極的に取り組むようになった。
- イ グループや全体での話し合いでは、他の生徒の意見をよく聞いて、自分の考えの参考にする生徒が以前より多くなった。また、教師の話等を聞くときの態度もついてきた。
- ウ 実験・観察のワークシートや発表用紙等に、「結果」と「考察」を繰り返し書くことにより、その違いを理解できるようになってきた。
- エ 予想→実験→考察→まとめと授業の流れの理解できるようになってきた。このことは、科学的な見方、考え方を身につけさせることにつながっている。

(3) 課題

- ア 根拠をもって考えさせるために、「なぜ？」を大切にしたい予想を立てさせる。なぜその

ように予想したのかを重視した発言等をさせる。

イ 実験の結果や考察をグループ内で話し合うときや全体で発表するときなど、人前で自分の意見や考えをなかなか自信をもって言えないので、発表する機会を多く設け、「話す」ことに慣れさせる。

ウ 考察では科学的で分かりやすい表現を考えさせたい。さらによりよい表現へ練り上げる指導はどのようにすればよいかを重視し、「考察」をさせるときには、グループ活動等で練り上げ高め合う場面を多く設定するなどして、言語活動の充実を図る。

エ 表現力の評価の工夫を図っていく。

オ 日常生活との関連を図り、学んだことを実感できる指導を行う。